

令和5年度 政策方針

令和5年度は、第3次総合計画の後期基本計画3年目の中間年度であり、事務事業評価及び令和4年度中間評価等の成果検証を踏まえ、次期計画も見据えて目標達成に向けた取り組みを進めていかなければならない。

事業展開にあたっては新型コロナウイルス感染症に対応しながら実施していく必要がある。新型コロナウイルス感染症は、私たちの生活を大きく変化させ、地域活動の停滞や地域経済に大きな影響をもたらした。新型コロナウイルス感染症の影響は今後もしばらくは続くと考えられるが、このような状況にあっても現在までに感染症対策で得た知識と技術に工夫を重ね、町民の安心・安全で健康的な生活と地域経済を守り地域の活性化を推進していくことが重要である。

また、近年のデジタル技術の急速な進展により住民の利便性及び行政サービスの向上も求められている。国においては、デジタルの恩恵によってそれぞれのライフスタイルやニーズに合った心豊かな暮らしを営むことができるよう、「個人を支える」デジタル化の実現を目指すものとしている。目指す姿としては、「誰一人取り残されない」デジタル社会の実現に向けて、個々人の多種多様な環境やニーズ等を踏まえて、利用者目線できめ細かく対応していくことにより、誰もが、いつでも、どこでも、デジタル化の恩恵を享受できるようにすることとしている。今後、デジタル社会の実現に向けては、国、町、民間事業者が連携し広域的な取り組みも視野に入れ推進していくものとする。

さらに、町においては様々な課題を抱えており、その対策や取り組みについて着実に実施していく必要がある。

町の基幹産業である農業では、農業従事者の高齢化、後継者不足、農地の遊休化に伴う耕作放棄地の増加、野生鳥獣による農作物被害、人的被害の回避等が課題となっており、それぞれの事務事業のより一層連携した取り組みが必要である。また、林業では、国産材への需要に対し十分な供給量を確保できない状態により木材価格が上昇しており、木材生産量の増加が見込まれるが木材搬出環境が充分でないため、林業専用道の整備と地域経済振興に繋がる木材利用拡大のための取組を推進する。観光・商工業では、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けており、今後、ウィズコロナ、アフターコロナを見据えた事業展開を推進し、町観光協会と連携して一過性ではない継続した観光対策に取り組む。

子育て支援については、この地域で子育てをしたいと思う親の割合は、様々な子育て支援策や相談体制など、きめ細やかな対応により非常に高い数値を示しており、本町の子育て支援が充実していることがうかがえる。老朽化している子

育て支援センターの施設更新や病児・病後児保育など、働く子育て世代へのサービスを更に向上させるとともに、良好な子育て環境や自然豊かな町の魅力を地域内外に発信し、移住定住にもつなげ、人口減少対策にも取り組んでいく。

子ども教育では、児童生徒数の減少に対応した学校の適正規模、適正配置や教育体制に相応しい施設の在り方、幼児教育の質の向上に向けたこども園の整備についての検討が必要である。そのため、令和4年度から開始した「地域とともにある学校づくりと幼小中教育の連携による次代を担う人材育成プロジェクト」を推進し、小中連携（一貫）教育の導入と非認知能力を高める園小中連携プログラムを全教育施設で実践し、義務教育学校や小中一貫教育校の整備に向けて検討を進めていく。また、学校を核とした地域づくりを推進し、学校運営協議会及び地域学校協働本部の活動を活性化させるとともに、こども園の施設整備を進め、保育・教育環境の充実に取り組んでいく。

このような様々な課題に対し、新型コロナウイルス感染症に対応しつつ、国が進める「デジタル化」も視野に入れ、第3次総合計画の基本構想に掲げる、まちの将来像「まるごと いいね！会津美里」の実現と、住民の多様な幸せと持続可能な地域社会の形成に向け、SDGsの理念を踏まえて、歩みを止めることなく着実に前に進めることが重要である。

令和5年度においては、限られた財源と人材を効果的かつ効率的に活用し、各課横断的な取り組みを実施するとともに、効果検証に基づく成果重視の改革、改善を図り、コロナ禍においても着実な事業推進に努める。

また、重点的に取り組むべき施策・事業について、総合的かつ戦略的な行政運営を展開していくことが重要であり、重点プロジェクトとして位置付け各部門が連携して事業を推進していくため、その方針について次のとおり定める。

～いいね！プロジェクト～

「元気づくりプロジェクト」及び「里づくりプロジェクト」の事業立案にあたっては、広大な山林が広がり、人の営みと豊かな自然が調和した、本町の特性と魅力を活かした事業とする。

「人づくりプロジェクト」では、未来を担う子どもたちの「知・徳・体」をバランスよく育て、一人ひとりの個性や能力に応じたきめ細やかな教育をより一層推進するための事業とする。

重点プロジェクト事業体系

重点プロジェクト	重点プロジェクト事業パーパス	重点プロジェクト事業名	後期基本計画事務事業名
元気づくりプロジェクト (人口減少対策)	里のもと ともに 驚きと幸せを	重点プロジェクト 事業名	事務事業
			事務事業
里づくりプロジェクト (環境整備)		重点プロジェクト 事業名	事務事業
			事務事業
人づくりプロジェクト (人材育成)	地域とともにある 学校づくりと 幼小中教育の連携 による次代を担う 人材育成	重点プロジェクト 事業名	事務事業
			事務事業
		重点プロジェクト 事業名	事務事業
			事務事業

重点プロジェクト事業パーパスは、重点プロジェクトを推進するにあたり「みんなが目指すもの」「理念・存在意義」として職員相互において共有し、本町の抱える課題に対し、各課が連携して積極的に取り組むため掲げるものとする。

「元気づくりプロジェクト」「里づくりプロジェクト」では「これからの会津美里町における事業開発を考える」【「パーパス」と「顧客体験」という概念を活用して】をテーマに、本町が有する広大な山林に着目し、里山の現状や居住されている方のニーズ調査等により、本町の魅力と課題を整理し重点プロジェクトを推進するため掲げるものとする。

「人づくりプロジェクト」では、基礎学力の向上、児童生徒数の減少、施設の老朽化など、様々な課題に対し、地域との協働により地域とともにある学校づくりと、学校を核とした地域づくりを推進し、町と学校と地域がともに未来を担う子どもたちの健やかな成長を願い事業を推進するため掲げるものとする。

重点プロジェクト事業パーパス

「元気づくりプロジェクト」「里づくりプロジェクト」

里のもと

ともに

驚きと幸せを

会津美里の里山には大いなる可能性があります。それは昔から培われてきた深い知恵や豊かな恵みです。里山にきちんと向き合うことでそれらを見い出し一方的に活用するのではなく、自然とともに歩み、その魅力を未来にもつむいでいきたい。誰もが同じように参加でき、誰もが誰かのために、ともに創りあげる里山の未来には、これまでにはない発見がありワクワクがあります。そこにはこれまでとは違う心が満たされた世界があります。そんな元気のある里づくりを目指して会津美里町は進んでいきます。

「人づくりプロジェクト」

地域とともにある学校づくりと

幼小中教育の連携による

次代を担う人材育成

出生から義務教育の終了までを見据え、「幼児期から一貫した非認知能力など学びの基礎力と学力の向上」「コミュニティ・スクールの導入などによる地域とともにある学校づくりと学校を核とした地域づくりの推進」「安心して子育てできる環境の提供」を主な柱として事業展開していきます。

※非認知能力：知能や学力のようにテストで明確に認知できないけれど、子どもの将来や人生を豊かにする、人間力ともいうべき能力。